

デジタル・オンデマンド出版センター

# オンデマンド専業を本稼働

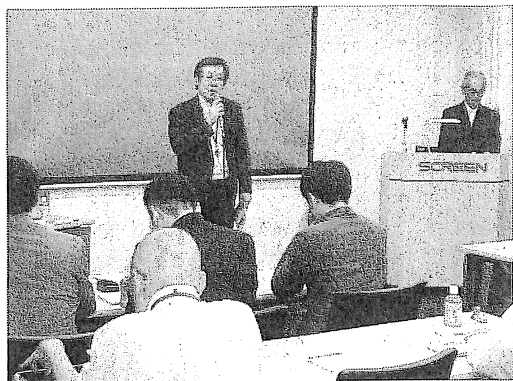
## 高品質 在庫負担を軽減 少ロット

## 新ビジネスモデル提唱

デジタル・オンデマンド出版センターはこのほど、1年間のテストマーケティングを終え、プリントオンデマンド事業を本格的に始動した。5月15日、東京・江東区のSCREENホールディングス門前仲町事務所にて出版社41人を集め、「サービスイン説明会」を行い、高品質・少ロットで在庫負担を軽減させるビジネスモデルを提唱。当日は、制作ロット10部からという「スマートペーパーバック」や復刊ドットコムとの連携など、製作から販売までのスキームを紹介した。

### 制作ロット10部から

デジタル・オンデマンド出版センターは光和コンピュータ、大日本スクリーン製造、メディアテクノロジージャパン、欧文印刷、刷研文社、メディアテクノロジージャパンの共同事業会社。



「出版社の役に立ちたい」と話す柴崎博和委員長

管理費などの諸経費を軽減して、効率的に流通できるかを検討してきた。同センターでは、約1年前に出版社と話し合いの場をもつて、製作費、原価ほか販売面に関する「出口戦略」などの課題に取り組み、このたび本稼働した。

当日は同センターの運営委員長である柴崎博和氏（光和コンピュータ）が「出版社がもっと機動的に本がつくれる環境をつくり、さらに売れるようお役に立ちたい。同センターは印刷・製本、システム、流通会社が集まった開かれたセンターです」と挨拶。

スクリーングラフィックアンドプレシジョンソリユーションズの平林利文氏は、①ロール紙に印刷するインクジェット印刷機を活用した「スマートペーパーバック」、②復刊ドットコムとの連携、③ハイブリッド出版の3点を提案した。

クは、B6/A4判の並製、表紙4色・本文1色の使用。カバー、帯、スリップはない。初回登録料は5000円。底本の場合にはスキニング代として1万5000円が別途かかる。モノクロの場合、製作費は1冊当たり基本料金180円で、1頁当たり2・5円。ウェブ上で校正ができる。最低ロットは10冊。新たなISBNも付ける。ハイブリッド出版は、初版300〜800部を想定。重版の制作ロットは30部以上。

通常100部以上の投票で絶版・品切れ本を復刊してきた復刊ドットコムでは今後、少ロットで重版する出版社の要望に応えて販売もする。当日は同社営業部の吉田淳課長も説明に当たり、協力姿勢を示した。

この後、同センターの提案を受けてオンデマンド本を製作したエスアイビー・アクセスの富澤昇社長、「フroid選集」など全42巻の名著を復刊した日本教文社IT戦略部の渡辺浩充部長がその効用を説明した。